



## 枕崎の良さを感じて欲しい ～まずは枕崎の人々に～

話し手 ボランティアガイド  
きた がわ ただ たけ

北川 忠武さん (昭和17年10月7日生)

聞き手 鹿児島県立枕崎高等学校 総合学科 1年



### 大阪から枕崎へ

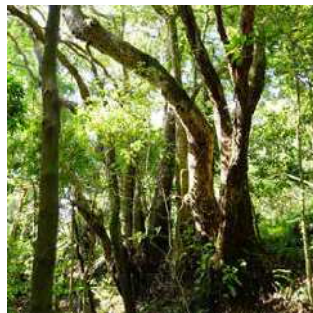
北川 忠武といいます。大阪府堺市出身です。枕崎に住んでから、知人の座談会に参加したときに、「枕崎にボランティアガイドがないからぜひ作ってください」と勧められて、それで平成27年に今のツアー型の組織「まくらぎ探検隊」を作ったんです。今会員は12人おります。

### 知恵は無限

まくらぎ探検隊では、枕崎の観光ガイドブック「まくらぎ三十六景」も作りました。各ページには、QRコードも載せてあって、それをスマホで読み込めば、英語と中国語に翻訳したものが見られるようになってます。QRコードだったら、新たに外国語版の冊子を作らなくていいんですよね。自分らで、できる範囲です。お金は有限だけど、知恵は無限なんです。だから無限の方を活用してやるんです。

### 枕崎の自然の利用

ガイドブックでは36ヶ所紹介していますが、本当はもっとありましたよ。150年位前に枕崎の木浦にあった樟脳(しょうのう)工場跡とかですね。樟(クスノキ)から樟脳という結晶を取り出す工場跡でね、樟脳というのは、衣類の防腐剤とか香水、アロマオイルに使います。今は化学薬剤が普及してきて樟脳の生産は激減してます。この工場が建てられた当時の薩摩藩は日本最大の樟脳の生産地でね、木浦地区にも樟が植わってたんです。



樟

ガイドブックに載せたのはみんなが興味を持つ場所と、一般的な場所に絞ったんです。

例えば、灰焼窯跡は、サンゴの化石を燃やして石灰を作る窯です。用途としては、家屋の外壁塗装や食用としてコンニャクなどの凝固剤として使われていました。で、この窯は南薩に現存する唯一のものなんです。他にも白沢海岸は、きれいな白砂の

砂浜が広がっています。砂鉄やサンゴの化石なども落ちてるんです。また、ここにはウミガメもやってくるんです。

勾玉浜は、阿多カルデラの火砕流によって形作られたものなんです。学術的には環状岩礁と言いますが、勾玉に似ているからということで勾玉浜と名付けられています。

### 埋もれていた観光スポット

私は余所から来てますんで、枕崎が新鮮に見えるんです。だから、いろいろ見つけられるんですかね。実は樟脳工場跡や灰焼窯跡を見つけた時は、落葉に埋もれてたんです。

白沢海岸も、探検隊でいろいろ調べて、砂鉄があることやウミガメが産卵に来ることがわかったんです。勾玉浜も会員がドローンで撮影したときに、たまたま発見したんです。



樟脳工場跡

### まずは枕崎の人に

枕崎の人に観光スポットを聞くと、「枕崎、何もいよ〜」って、みんな言うんですね。出てきても1つ、2つ。だから、まずは枕崎の人にガイドブックを見て知って欲しい。枕崎にずっと住んでると、美しさや貴重さっていうのに気がつかない。あって当たり前って感じてしまうんです。だから、いろんなところを見てもらって、枕崎の良さを感じて欲しいですね。

また、ガイドブックを見て、興味を持って枕崎探検隊に入ってくれる人がいるとうれしいです。うちは、下の年齢制限ありませんから、もっと若い人にも会員になって欲しいですね。



灰焼窯跡



白沢海岸

#### 聞き書きコラム



### 生活を支えたサンゴの化石

今回紹介した灰焼窯跡は昭和53年まで生産をしていた。当時は毎月2回焼き、1回の生産量は約4.5トンだったという。その用途は、家屋の外壁用、田畑の土壤消毒や中和剤。さらに食用として「こんにゃく・黒砂糖」の凝固剤など幅広い用途があった。

引用:「まくらぎ三十六景」2019年版